



世界農業遺産記念

能登のいきもの写真集出版

おらっちゃんの里山里海通信、おかげさまで第2号を発行することができました。今回も、おらっちゃんの活動をご紹介します。第2号トップの記事は、昨年春にNPOおらっちゃんが企画した「能登の生きもの写真集出版プロジェクト」についてご紹介します。

能登の里山里海が平成23年に世界農業遺産に認定されました。しかし認定以後も、何が能登の農業遺産はと聞かれたら、迷う人も多くいらつしゃいます。多くの方が真っ先に思い浮かべるのは輪島の千枚田です。たしかに素晴らしい風景で、それを維持してきた多くの人々の努力を伺うことができます。しかし世界農業遺産



シュレーゲルアオガエル Photo by Kohei Watanabe



オニヤンマ

Photo by Kohei Watanabe

産と認められたのは千枚田だけではなく、人と自然の関わりによって作り上げられてきた様々なものの複合体と考えています。

私たちは能登の里山里海に含まれる要素を一つ一つ大切に伝えていこうと考えました。今回の写真集は、能登の里山里海の生物多様性について、その一部を皆さんに紹介させていただきたいと考え、企画しました。

能登の生きものの撮影者は、愛媛県出身の渡部晃平（わたなべ・こうへい）さんです。写真集にはトンボやカエル、ゲンゴロウといった能登の田んぼに生息する生物を中心に、希少な野鳥やキノコに至まで様々な生物が収録されています。どれも素

晴らしい写真で、撮影者の渡部さんがどれほど生きものと写真集を愛しているか伝わってきます。写真集のタイトルは「里山に生きる仲間たち 人間と生きもの共生する奥能登」となり、渡部さんが出される初の写真集でもあります。

写真集の帯には、NPOおらっちゃんから、「奥能登には、日本各地で姿を消しつつある生きものと、それを支える里山里海が残っている。」というメッセージを書かせていただきました。

写真集出版には、県内外多くの企業や個人の皆様に協賛金という形でご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。ご協力いただいた皆様のお名前を、写真集の巻末に掲載させていただきます。

できました。協賛金の一部は私たちNPOの活動費に当てさせていただいております。

能登の里山里海に生息する希少な生物はまだ他にも多く存在します。また生物多様性だけではなく、伝統文化も能登は多様です。これからも能登の里山里海を伝える、色々な企画を実現させていきたいと思

写真集

「里山に生きる仲間たち」

人間と生きものが共生する奥能登

定価：1680円（1600円＋消費税）

ISBN：978・4・89010

・59319

発行：能登印刷出版部



石川県内、各書店でお買い上げいただけます。またNPOおらっちゃんでも販売いたしますので、興味のある方は事務局までご連絡下さい。

留学生との交流

平成二十四年十一月十日、地球環境基金の事業で、金沢の留学生に珠洲に来てもらい、能登の里山里海を体験していただくツアーを実施しました。留学生の皆さんは、十月に金沢に来られたばかりで、日本といえば都市、電化製品、アニメ、と言ったイメージが強かったようですが、今回は能登の里山里海で、ディープな日本を体験していただきました。

バスで珠洲市の能登学舎に到着後、早速へんざいもんで昼食。へんざいもんは能登学舎で毎週土曜日に営業しているコミュニ



ティレストランです。一食八百円となっており、詳しくは、8ページの事務局連絡先までお問い合わせください。留学生の皆さん、珠洲の食材を使った料理楽しんでいただけたようです。

金沢から珠洲は150kmと遠く、一日中珠洲の里山里海を満喫、というわけにはなかなかいきませんが、午後からは、天気が良かったので珠洲の里山里海を散策しました。この日は海が結構あれていたのですが、押し寄せる波を見て皆さんテンションが上がったようです。冬のザ・日本海を前に写真を撮たくさん撮られていました。里山では、きのこが見られることを伝えると、隊の留学生の方が、「マツタケはありますか」と熱心に探していました。残

念ながらマツタケはありませんでしたが、大きなモミタケ、珠洲ではさまつと呼んでいるきのこがでていました。これも美味しい天然のきのこです。

今回来られた留学生は中国、韓国、ベトナム、タイなどアジアの方が多かったです。そして自国では都会のほうに住まわれているようで、「山歩きなどはじめてだった」とか、「おばあちゃん家の山がこんな感じだった」とう感想をいただきました。おや、日本でもアジアの他の国々でも、若い世代の生活習慣はにたようなものですね。また、なぜ自然に手を加えるのか、そのままでの姿が一番ではないのか、という意見も出ました。日本では、里山の利用の減少（アンダーユース）が問題になっ



ていますが、その他の国では自然資源の使い過ぎ（オーバーユース）が主な問題です。でもアジアの他の国々でも、おそらくそう遠くない将来、日本と同じような問題が起ってくるかもしれません。ぜひ、日本の現状を把握していただき、自国の状態と比べ、未来の国の姿を描いていただければと思います。海外の方と交流することで、日本の里山が見えてくるというのはとても面白い経験でした。留学生の皆さんは、これをきっかけにまた珠洲へきてくれることになりました。



「いのちの食べかた」を学ぶ。

「いのちの食べかた」、という映画がありました。食べ物の作られ方、その生産現場の様子を描き、大量生産、大量消費について問題提起したドキュメンタリー映画です。私たちは能登という自然に恵まれた土地に住みながら、食べているものは都会と変わらない部分も多くあります。食べ物の大切さ、命の大切さを改めて学びたいという声を受け、平成二十四年十一月二十三日、ワークショップ「いのちの食べかた」

を開催しました。

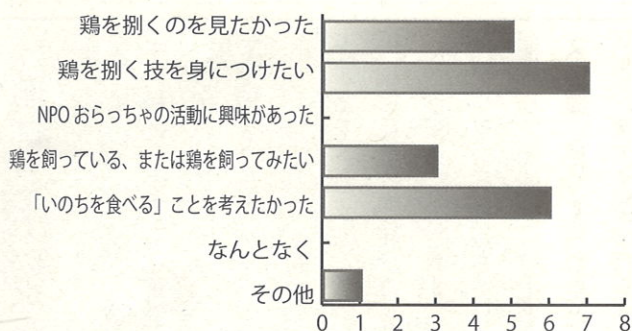
このワークショップでは、鶏の絞めかた、捌きかたを講師に習い、自ら体験し、最後は食べるというものです。参加者は9名、小学生から幼児までの子どもが4名、講師2名、スタッフ2名と総勢17名で行いました。講師が絞め、血抜きと毛をむしるデモンストレーションをした後、参加者がグループに分かれて実際に体験。次に別の講師が捌くデモンストレーションをし、参加者の体験と続けました。料理は鶏団子の鍋を皆で作り、食べながらその日感じたことをお互いに話合いました。生きた鶏を捌くのは初めての人がほとんどであったにも関わらず、慌てるようなこともなくスムーズに進み安心しました。子どもたちも心配するようなこともなく、絞めるときは皆一番前に出て興味深げにしっかりと観察していたのが印象的でした。以下、参加者の感想の一部です。

- ・絞める所から料理をして食べる所まで全て経験できたことが貴重だった。すごくあばれるのかな、と思っ

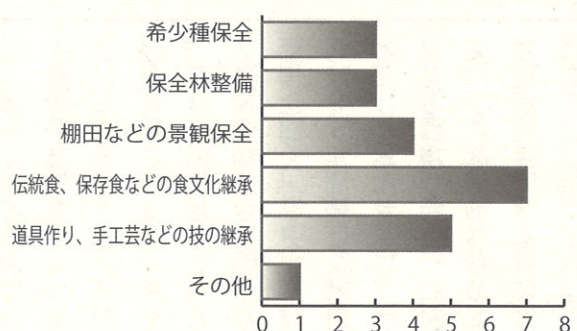
ていたけれど、以外とあばれなくて、脈を切ったら、あっさり死んだから、あまり怖くなかった。なかなか体験できない事、生きている鳥、もつとあばれたり、鳴くと思っていたが、つるされた時、しずかになったのとごめんなさいより、ありがとうと思っている自分がいきました。生きている鶏を捌くという体験に自分がどんな気持ちになるのかなと最初は思っていました。血を抜く瞬間やはり、少し手がふるえました。でも、やっぱりそうしてしまつたら、おいしく食べることが必要なのだなと感じました。人数が多かつたのと、しめる気まんまんまで来たので、あまり感傷的になることは無かつたです。それがいいか悪いかは別ですが、たまには、自分が他の生き物の命を奪って生きていることを実感するのも大切なことだと思います。

今回、鶏を提供してくださった松家さん、小谷内さん、講師をしてくださったキャロラインさん、仙北屋さん、皆様の助言やご協力に感謝いたします。有り難うございました。

Q2. どんな活動に興味がありますか？



Q1. なぜこのワークショップに参加したか。



今回はアンケート調査も実施しました。その中で二つの質問について結果を示します。何故このワークショップに参加したか、という質問ではやはり鳥を捌くことに興味を持っている方が多かつたです。また、命を食べると言うことを考えたいという方も。里山里海での活動では、伝統食、保存食など食文化のや、手工芸といった知恵の伝承に興味が多いようです。

おらっちゃんの森づくり運動2012開催



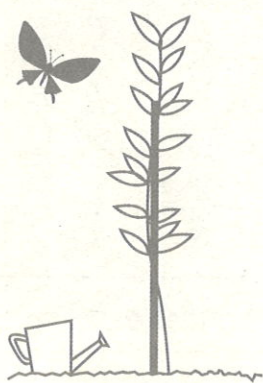
珠洲の荒廃した里山を再生する事業として、今年で第4回を迎えた「おらっちゃんの森づくり運動」は、平成二十四年十一月十一日の日曜日、曇りのち雨の天候で、足下もぬかるむ悪いコンディションでしたが、180名を超える多くの方の参加を得て、無事終了いたしました。

珠洲の荒廃した里山にクヌギを植えるこの事業は、様々な団体によって支えられています。東京

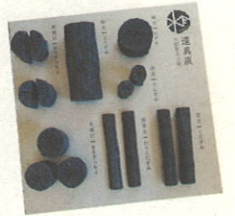
のNPO法人グリーンンウエーブさんには、この植林活動運営資金を提供していただき、更にクヌギの苗も育てていただきました。また今年度は、セブンイレブン記念財団が活動のための助成をしてくださいました。参加者の中にも、さまざまな団体があります。能登からは、NPO「おらっちゃんの里山里海メイト」、七尾特別支援学校珠洲分校、宝立小中学校、社団法人珠洲青年会議所、珠洲マツ、珠洲市農林水産課、珠洲市内各郵便局、金沢からは、星稜大学、金沢増登会、36会ボランティア倶楽部、石川県退職者連合、食・水・みどりネットワーク連合石川、裏千家淡交会金沢城北青年部など、まさに多様な主体が参加して一つの活動を支援する事業となっています。

植林と生物多様性

この事業は、荒廃した里山にクヌギを植えています。荒廃した里山というのは、ここではかつて農地として整地された山林が、うまく農地として利用されず、荒地地化しているところをさします。能登では以前、大規模な農地開発がなされ、その多くがうまく利用されず、一部は森林に戻っている地域もあります。今回植林した場所は森林にもならず、クズが覆い尽くす荒地地とかがしてまいた。金沢大学の博士研究員をされている伊藤浩二博士による調査では、植林以前の荒廃した里山では、生物の多様性もかなり低く、クヌギ林にした場所の1/3程度しか植物種が確認されなかったそうです。一方、8年前に植林された場所では67種類の植物が確認されました。伊藤博士曰く、「クヌギ植林と林床の草刈りを8年間続けた結果、特定の草木だけが繁茂せずに、光がほど良く当たる環境が整えられたことで、背丈の小さな植物も含めて、多様な植物種が共存できる林になったと思われまます。」とのこと。



利用保全という考え方



この植林のゴールは、10年後に伐採し、茶道用の炭にすることです。伐採されたあとは再び萌芽を育て、さらに10年後に炭を作ることで育ちます。このように里山を有効活用して地域の産業としていくことで、広範囲の広葉樹二次林を維持していこうというものです。数十年後にそこがどのような森になるのかを想像し、木を植えることが大切だと思います。

現在珠洲市では、地域の多様な主体と連携した生物多様性保全の計画作りを行っています。今回の植林はそのモデルとなる活動です。今後は、木を植えることに加えて、木を育てるための草刈りなどと言った作業も実施していく予定です。地域の里山を利用した産業と密接にかかわる活動を行うことが、珠洲市の計画のテーマです。

この事業の中心となっているのは、若き炭焼き職人の大野長一郎氏です。炭焼業二代目の彼が家業を継いだその年に植えた最初のクヌギが、いよいよ今年伐採され炭になりました。平成二十五年の八月以降、本格的に販売される予定です。素晴らしい炭ができることを期待しています。そして、大野さんの生業がこの奥能登で末長く続いていくように、人と里山の繋がりが維持されていくように私たちも活動を続けていきたいと考えています。

里山で過ごすひと時。

「珠洲の音」開催

珠洲の音(すずのね)というイベントが、毎年五月に珠洲で開催されています。珠洲出身の女性をはじめたこのイベントは、元々はアースデイの一環として行われていましたが、より地域の方が参加しやすく、珠洲らしさを出せるイベントにしたいということで、名前もアースデイ珠洲から、珠洲の音に変更したそうです。春の里山で、地の産品を使った美味しい食べ物や、漆器の木地や草木染など昔ながらの手仕事による工芸品に触れることができます。



る貴重なイベントです。里山の中のヨガ教室や歌のライブもあるそうです。会場は全国にその名を知られた湯宿「さか本」さんのお庭をお借りします。主催者カラのメッセージです。「このイベントは珠洲の自然をすこしでも感じることででき、珠洲っていいところ、こんなところがあつたんだとイベントを通して多くの方に知ってもらおう入口としてなにかできないかという想いではじめました。珠洲の人をはじめ、土の音、木々の音、小川の音、海の音、皆様にはどんな珠洲の音が聞こえるでしょうか。」能登から素敵な音を発信して

いる人たちがたくさんいます。この素晴らしいイベントに、NPOおらっちゃんからは、研究員が会場周辺の里山を使って、春の植物観察会を行います。イカリソウやオオイワカガミ、レンゲツツジなど普段あまり気にすることのない里山の春の花に、一歩足を止めて、目を向けてみる。花の形や色、感触などを確かめる。そんな春のひと時を過ごしてみませんか。皆様のご参加をお待ちしております。

珠洲の音、詳細

開催日：五月十二日(日)

時間：十時～十六時

開催場所：湯宿さか本(石川県珠洲市上戸町寺社15-47)



祭礼用男松植樹プロジェクト

NPOおらっちゃんと、地域の若者が中心となって珠洲の里山の伝統と自然を守る活動を紹介します。皆さん、珠洲のキリコ祭りをご存知でしょうか。珠洲の最も特徴ある伝統文化であり、地域の多くの方が関わる行事であるキリコ祭り。そのキリコには、笹や松など地域の植物が必ず飾られています。珠洲市蛸島町では、キリコに男松（クロマツ）を2本飾るのがしきたりだそうです。蛸島町には、鉢ヶ崎（はちがさき）という、県内でも有数の透明度を誇る海水浴場があります。鉢ヶ崎のクロマツ林はとても美しく、魚付き保



Photo by Kohei Watanabe

安林として管理もされていますが、このクロマツが松枯れ病で年々枯れていっています。また、祭りの際にキリコに飾るような若い松も最近町内では手に入りにくくなっており、若いマツを育てる必要ができてきました。そこでNPOおらっちゃんと蛸島青年団が協力し、祭礼用男松植樹プロジェクトとして、鉢ヶ崎の海岸にクロマツの植林を行うこととなりました。植林したクロマツの一部を祭りに使用し、クロマツ林を育てていこうというこのプロジェクトです



が、クロマツの植林は未経験です。まずはその育て方を学ぶために、根上松（ねあがりまつ）で有名な能美市根上町で、海岸のクロマツの植林を長年されている高坂・根上町みどりを守る会の活動を見学してきました。

根上のクロマツを学ぶ。

根上町の町名の由来となった、根上松とは、根が地面から浮き上がっていることで有名なここでもやはりクロマツが無くなってきて、かつての景観を取り戻すため地域住民の手によって美しく植えられています。地域の中学生も植林に参加しているそうです。小さな苗は、砂地で元気に育っていました。クロマツの苗を植

える際には、土に炭を混ぜると根にきのこが生じやすくなり、丈夫に育つそうです。

植林イベントが開催
されました！



平成二十五年三月十日に、クロマツの植林イベントを開催いたしました。当日は地域の方およそ三十名が参加し、二百本のクロマツを植林しました。三年後には蛸島のお祭りに使えるようにと見込んでいます。地域の手で、伝統文化と里山里海の風景を守っていく活動が始まりました。今後は、落ち葉かきや草刈り作業が年々何回かありますが、落ち葉を燃料に珪藻土の力マドでご飯を作るとか、鉢ヶ崎のビーチで観察会なども並行して行うなど、エコツアーの資源としてこの場所を活用できればと考えています。クロマツには食用きのこのシヨウロも発生するので、将来は鉢ヶ崎でもシヨウロ狩りも体験できるようになるかもしれません。地域の伝統文化と里山里海の保全を両立させた活動を作り、若い世代が能登の里山里海を引き継いでいく。世界に誇る農業遺産に相応しい活動になっていくと確信しています。

火あそびワークショップ



平成二十五年一月二十六日(土)に、
 珠洲市小泊の能登学舎にて、「火あそびワークショップ」を開催しました。
 今回は、NPOおらっちゃんの事務ス
 タッフをしていて中谷なほさん
 にレポートしていただきます。

今回は農家民宿しいたけ小屋「ひろ吉」の奥野弘吉さんを講師に迎えて、
 火の使い方、遊び方を学びました。久しぶりの大雪で、雪がしんしん降る朝、まずはお互いの自己紹介。参加者は珠洲や輪島、穴水から子ども、大人を合わせて16人です。

アクティビティは「新聞1枚で火をおこそう」から始まりです。まずはちぎった新聞をクルクル。それを固くねじって棒をつくりまます。新聞の棒と炭を上手に組めば、20分くらいで火がおきました。

次は「丸太のトーチ作り」。チェンソーで丸太に切れ目を入れるひろ吉

さん。参加者も交代でチェンソーを試してみます。慣れない人はちよっと、へっぴり腰。今回は杉の丸太を使ったけれど、どんな木でもできるそうです。切れ目に着火剤を少し入れて、マッチで点火。丸太が雪で濡れていたからか、なかなか火がまわりません。しばらくたつたら、いつの間にかふたつのトーチの上でヤカンのお湯が沸く程になりました。

ここで休憩。お昼ごはんはお愉しみの猪みそ鍋とシカ鍋です。さつきおこした七輪の炭でおむすびも炙って、みんなで「いただきます!」。子どもも大人もよく食べます。さらにデザートには差し入れの焼芋も。しっかり食べて体が暖まったところで、最後のアクティビティ「ロケットストーブ作り」に挑戦です。燃焼効率の良さや何でも燃やせることが特徴のロケットストーブ。今回はこ



れが目当てという参加者がほとんどです。材料は一斗缶、ステンレス筒とエールボー筒、軽石のみ。グラインダーで切ったり、金ヤスリをかけたたり、カナヅチで叩いたり。お互いに協力しての作業です。予定の時間は大幅に過ぎてしまいましたが、それぞれのストーブが完成しました。「初めての里山里海」

思った以上に楽しく、素敵な場所、人達ばかりで参加して、とても良かったです。」と、参加者からのコメントをいただきました(中谷)。中谷さんにレポートしていただいた、火遊びワークショップでは、火を使うことの楽しさ、ちよっとした工夫、火の怖さまで学べる、充実した会になったようです。NPOおらっちゃんの里山里海では今後ともこのような子どもと大人が楽しく学べる機会を提供していきたいと考えています。皆さんのアイデアやご参加をお待ちしています。一緒に里山里海を学び、体験し、楽しみましょう。



ビオトープ田んぼ

おらっちゃんのいきもの米

販売中!!

コシヒカリ米



1,5キロ1000円
売上は里山保全に使われます。

<お問い合わせ>

おらっちゃん事務局
TEL 0768-88-2528

入会のご案内

おらっちゃんの活動に参加しませんか?



NPO おらっちゃでは、活動に参加してくれる方々をいつでも募集中です。是非奥能登の里山里海を私たちの手で守り活用する取り組みに参加してください。会員は正会員・賛助会員の2種類あり、正会員は運営にも携わることができます。賛助会員は活動を支援していただく方々です。能登を元気にする活動にぜひ参加して下さい。

個人正会員 年会費 10,000円 団体正会員 年会費 30,000円
 個人賛助会員 年会費1口 1,000円 団体賛助会員 年会費1口 5,000円
 稼働をご支援いただく方々からのご寄付も受け付けております。

振込先：ゆうちょ銀行

加入者名 特定非営利活動法人能登半島おらっちゃの

記号・番号 00710-9-45126

金融機関コード 9900 店番 079

預金種目 当座 店名 ○七九店（ゼロナナキユウ店）口座番号 0045126



NPO おらっちゃ理事長
北風八紘

編集後記

今回も無事、おらっちゃんの里山里海通信春号をお届けすることができ、ほっとしています。2012年は地球環境基金の支援をいただき、地域の方々とワークショップや調査を通じて様々な活動が展開できました。特に若い世代の方々が親子で楽しむ活動を展開できたこと、そしてその方々がおらっちゃの活動に積極的に参加してくださるようになったことが大きな成果であると感じております。特に、クロマツの植林活動は、地域の青年団をはじめ、漁協の皆さん、蛸島小学校の皆さんも参加いただき、大きな活動になりました。世界農業遺産となった能登の里山里海が地域の手で継承されていく、その一歩が築けたのではないかと考えています。今年も厳しい冬が過ぎて、能登もようやく春が訪れました。田んぼやため池にはクロサンショウウオやアカガエル、タマガコがたくさん生まれています。これから山菜もたくさん採れますし、海では天然わかめの解禁日ももうすぐです。2013年もどうぞよろしくお願いたします。

石川県珠洲市

おらっちゃんのいきもの米

1.5kg ¥1,000

ご注文はこちらまで

TEL:0768-88-2528



NPO 法人 おらっちゃの里山里海事務局

〒927-1462 珠洲市三崎町小泊 33-7 金沢大学能登学舎 1F
 TEL/FAX: 0768-88-2528 Mail: info@satoyama-satoumi.com

Homepage: <http://www.satoyama-satoumi.com>

Blog: http://www.satoyama-ac.com/satoyama_blog/kinoko/



独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて製作しました。